

# 小布施町国土強靱化地域計画（案）パブリックコメントの結果等について

1 募集期間 令和4年3月9日（水）～23日（水）

2 意見提出者数 4名

3 提出方法別内訳

郵送	窓口持参	メール	F A X	合計
0通	2通	2通	0通	4通

4 意見に対する町の対応と件数

対応方法	件数
A：計画案を修正・追加する	4件
B：計画案に盛り込まれており、修正しない	0件
C：計画案は修正しないが、今後の取り組みにおいて検討又は参考とする	2件
D：計画案に反映しない	1件
E：その他	1件
合 計	8件

## パブリックコメントで提出された意見と町の考え方

No.	意見の概要	考え方・修正	反映状況
1	【P9.15】堤外地と堤内地を逆に解釈した表現になっています。正しくは堤防の河道側が堤内地、居住地側が堤外地です。	国土交通省の定義では、堤防によって洪水氾濫から守られている住居や農地のある側を堤内地、堤防に挟まれて水が流れている側を堤外地としていますので修正はいたしません。 <a href="https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kasen/jiten/yougo/03_04.htm">https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kasen/jiten/yougo/03_04.htm</a> (国土交通省)	D 計画案に反映 しない
2	【P14】参考資料中の数値に記載されている『.』は小数点でしょうか？ 0.1以下の桁は有効数字に入りませんので不要です。読みにくいので整数で表示してください。	ご提案のとおり小数点以下を削除し、整数の表記に修正いたします。	A 計画案を修正・ 追加する
3	【P22】令和3年の凍霜害と、周辺地区（松代、若穂、中野など）における雹害について記述した方が良いと思います。昨年小布施町周辺で3度降雹がありました。町内で雹害が無かったのは偶然にすぎません。	記載が抜けていた過去の凍霜害等を追加いたします。 周辺地区の被害状況記載の趣旨は理解できますが、小布施町の計画になりますので記載いたしません。次回更新の際に検討いたします。	E その他
4	【P29】特定空き家ではない建物でも、耐震性が不足し地震の際に通行に支障や危険を及ぼす恐れがあるものについては、ブロック塀と同様に積極的に現状把握に努めた方が良いと思います。	「小布施町耐震改修促進計画（Ⅲ期）」では、町内における住宅の耐震化率は現状で76.8%と推計されています。住宅の耐震化を促進するため、旧耐震基準（昭和56年5月31日以前）に建てられて住宅の所有者に対して、耐震診断士の派遣と木造住宅の耐震改修補助による支援を進めます。	C 計画案は修正 しないが、今後の 取り組みに おいて検討又 は参考とする

5	<p>【P30】令和2年3月23日付で、長野県により、松川の洪水浸水想定区域図が公表されました。（長野県公式ホームページに掲載）ここには、毎年1/50の確率で発生する降雨に伴う松川の洪水浸水想定区域が示されており、松川流域に24時間で77mmの降雨があった場合がシミュレーションされていますが、長野電鉄鉄橋から下松川橋の間で川が氾濫、大島地区をはじめ町内の一定の範囲が浸水する想定となっています。令和元年～4年にかけて、県により松川の河道掘削・河川内樹木伐採が行われており、併せて堤防天端舗装の工事も行われています。令和3年6月29日、大島公会堂にて須坂建設事務所によりこの工事の説明会が行われましたが、そもそも松川の治水は24時間で77mm以上の降雨に耐えられない設計となっており、今回の工事ではこの状況は解消されないとの説明がありました。地球規模で気候変動が発生しており、毎年のように集中豪雨に見舞われる昨今、50年に1度の大雨・24時間で77mmの降雨で洪水が発生するようでは、いつ被害が発生してもおかしくないと言えます。松川の堤防の抜本的強化が必要であり、それを地域計画に盛り込むことはできないでしょうか。現状の地域計画（案）では、松川の治水についてはP30 1-3-1 2で言及されています。例えば、ここに、「松川の堤防強化を図る」や「県に対し松</p>	<p>松川の治水対策は町にとって重要な課題になりますので、ご提案のとおり、堤防強化を要望する旨を記載いたします。</p>	<p>A 計画案を修正・追加する</p>
---	--	--	--------------------------

	川の堤防強化を要望する」など、具体的に松川の堤防強化に関する文言を入れられないでしょうか。		
6	【P7】P11 同様に「図表7河川」へ「北陸新幹線」を追加してはどうか。	ご提案のとおり修正いたします。	A 計画案を修正・追加する
7	【P34】大規模地震においては水道管の破損と火災が同時多発的に発生することが予想され、消火栓の圧力低下や、配水池の水が足りないといったことが起きる可能性があります。また、消火栓の管内に錆こぶが付着し、水の出が弱くなっていることもあります（少し水を出したくらいではわからず、実際に消火水量を出したときに初めて判明する）。消火栓が使えないことを想定した対策立案や訓練も行った方が良いと思います。	ご提案のとおり消火栓が使えないことを想定した訓練等を今後検討していきます。 また、水道管は災害時に備え、重要度に応じた優先順位を付けた上で整備を進めていきます。	C 計画案は修正しないが、今後の取り組みにおいて検討又は参考とする
8	【P9】「令和元年東日本台風による排土作業に関する資料」という名称を具体的な記載にしてはどうか。	ご提案のように修正いたします。	A 計画案を修正・追加する